

國なので特に英帝國領土内に於いて然かりである。

3、第三位は之を一單位として考へたる西部歐羅巴である。歐洲も之を一國に引き離せば孰れも鑛産資源の顯著な一群は一つとしてない。

4、或る特種の鑛物の大量供給資源を持つてゐても、工業の發展に充分な鑛物供給を支配し得る國々なり又は群なりは他にはない。かゝる特種鑛物は北大西洋岸諸國の資本の支配を受け主として夫等の國々の工業への補助的供給として役立つてゐる。南アフリカ、露西亞、濠洲等は獨立の工業發達を許容し得るだけの鑛物を有する例外の區域で唯此處だけである。亞細亞は若し各所に散在する廣域の資源が單一統制の下に事業を開始し得るに至れば確かに工業的發展の可能性がある。

5、世界の鑛物開發は北大西洋岸の工業中心地から出立してゐる。鑛物の供給に就いて各國

間に平等といふやうなものはない。斯かる供給が過去に於ける北大西洋諸國の政治的、金融的優越に貢獻した限り將來に向つて眼に見えるやうな著しい變化は見えてゐない。

6、最後に、最も恵まれた國家でも自給自足といつたものは一つもない。またありやうがない。國際間の相互依存と各國の特殊性化は鑛物生産に表はれてゐて、確然と自然界に於ける鑛物の分布に依つて定められてゐる。

新著紹介

○明治以前日本土木史

東京市麹町區丸ノ内三ノ六
土木學會發行 定價十五圓

土木學會が多額の費用と三ヶ年餘の日子とを費して刊行された空前の大著述である。即ち同學會は我國固有の掘池、築堤の純農工時代より漸次發達せる歷程を明かにせん爲に昭和七年十月より同學會内に明治以前日本土木史編纂委員會を設けられ、中央及び地方に數十名の委員を依嘱し、(各府縣土木部長は多く委員)舊藩主、地方舊家等を訪ね各種の資料を蒐集し、東京帝大史料編纂所及び帝國圖書館等の援助により、

史料を分類整理した、以つて古來の變遷發達の經路を窺知するを得、昭和十年六月遂に完成上梓するに至つたものである。編纂は十の部門に分ち、各専門家を以つて執筆を擔當せられ、其の委員長に田邊朝郎博士、副委員長に眞田秀吉博士を推し統括せられたものである。従つて目次内容は十編に分れてゐる。今其の表題項目を舉ぐれば次の通りである。

第一 河川・運河・砂防、第二 開墾・干拓・埋立・溜池・灌漑・排水、第三 港津・航路・航路標識、第四 道路・橋梁・渡場・關所、第五 都市造營、第六 城壘、第七 水道、第八 測量、第九 土木行政、第十 施行法で其詳細は紙面の都合上記載し能はないが、試に第一編の河川・運河・砂防編の河川の章に就いて其の小項目を見るに、第一節緒言、第二節水害、第三節制度、第四節工事概説とし、就中工事概説は上古以來各時代分に論述し、尙高低水工事、河口變遷等に就いて述べ、第五節に全國著名河川の各々に就いて詳細なる調査記述があり、各編共に時代分は同様である。尙卷末に本書編纂に際し參考資料として引用せられたる書籍類を五十音順に配當したもので之亦貴重なる參考資料である。その他貴重なる古圖及び參考地圖として第一編に利根川變遷圖他四圖、第二編に紫雲寺湯舊繪圖他六圖第四編に房川渡橋圖他四圖、第五編に長崎繪圖他八圖、第六編に豊臣氏の大阪城圖他四圖、第七編に江戸内水掛り繪圖他五圖、第十編に富士川、天神瀧難船除大石運搬圖がある。以上は多く原圖縮

少色刷であるが其の他寫眞版、見取圖、古書複寫の圖版現狀圖等が數多く挿入されてゐる。圖そのものだけでも單に土木的技術上ののみならず河道變遷、開拓、交通、水道埋立等直接地理學上の參考資料になるものが多い。

而して四六倍版本文千七百四十四頁、參考資料十四頁、背革金文字入の彪大なる大冊子である。

本書は元來我國の土木史で土木關係者に裨益する所甚大なるは言を俟たない。然し地理學上特に歴史地理學研究者にとりては、貴重な寶典として座右に備ふべきものである。幾多の文獻を披渉し、其の道の専門家によつて記述された權威ある本書は、交通は勿論、開拓埋立、河川變遷、運河の開墾利用、港灣の計畫と其の工事、都市造營、城廓の築造、測量等直接間接直ちに地理學上資料として重要なものである。

殊に一々右記録を引用し右地圖を舉げて説明してゐるので研究上非常な便益を與へてゐる。

個々の内容に至りては、或ものはこれ以上詳細なる記録又は研究報告物も多からう。然し本書は其の材料全國に涉り、然も前述の十編に限定されてある故、限りある紙面故これ以上の纏つた記述を望む事は、無理であらう。元來我國には此種の刊行物が殆んどなかつた今日、半官的の力を以て之が完成を遂げられた點は喜に堪へざると共に、斯道に裨益なる事の甚大なるを思ふものである。敢て推賞し紹介する所以である。(吉川)

○輪中聚落地誌

中澤辨次郎纂修 日本農村問題研究所

定價六圓

濃尾勢三州に跨る木曾川下流の低平な洪涵平原を或る所は蜂の巢の目のやうに或る所は網の目のやうに區劃しそこに堤防を築いて一村、一字を守りつけて水神の災厄を免がれてゐる所謂輪中といふものは例令は西の國のオランダの低地を海から防いでゐるやうな人類の努力である。勿論今の輪中は和蘭のポルダーと同様だとはいへぬではあらうが濃尾平野の諸川併流による複合的洪涵現象を防禦した過去の人間の努力は或はオランダの人の苦惱よりも大なるものがあつたかもしれない、何れにしても我國に特異な輪中といふ村落形態の發生を地理的に歴史的に研究した文獻の纏つた最初の試として我等はこれを歡迎することが出来る。菊版五七六頁尠大な著述であつて圖版も多數である。第一篇はその地理學的研究で別技篤彦君の西濃平野の研究を參照し、河道の變遷をたどり氣象現象に及び、堤塘發達の沿革を論じ、その形態をのべやがて木曾川改修三川分流とその輪中に對する影響を語り人口分布を概説し最後に歴史的過程をのべてある。三川分流治水完成の後になつて、かうした過去の水害と其應急策とを知ることとは温故新知の貴い資料である。況んや分流の後下流は完全に水害から解放されたとしても、その上流に猶不完全な堤防が残つてゐては助かつたとはいへない。たとへ治水が今日出來上つてゐても、百年の後再び災害なしと誰が斷言し得や

うか。即ち本書をすゝむる所以である。(藤田)

○苗族調查報告

國立編譯館出版 烏居龍藏著

烏居龍藏氏が一九〇三年苗族調查報告を出されたのをみて今度支那の譯館でその九章を漢文に繙譯し支那西洋の圖書の引用文で不備な點を補正して新たに譯出したものである。責任者は劉英士である。定價二元捌角、烏居博士の原書と對照してみて、面白いと思ふ。(藤田)

○元代雲南史地叢考

夏光南著 中華書局
定價八角五分

元世祖雲南を平定してはじめてこの方面が支那の版圖に入つたともいへる。勿論戰國時代から漢族と交渉はあつたが、さうして印度への陸路交通もあつたが、中原の人々は之を邊境として顧みなかつたのでさつぱり歴史がわからない、世祖に至つてやうやく平定し佛教大に興隆し風氣大にひらけ明代には鄭和のやうな航海の偉人を出すやうになつた、さうしたこの方面の參考資料として一讀の價があると信じる。(藤田)

雜報

○白耳義領ロンゴ

面積九十一萬八千方哩で英領東阿三州よりも大きく、白國委任統治地域ルアンダウルンディ(タンガニイカ湖東)二萬平方哩を合せて人口千四百四十